

土着天敵の生物農薬化と 露地圃場での保護利用に向けた取り組み

大井田 寛 氏

(千葉県立農業大学校 病虫害専攻教室)

日時：2015年5月19日(火) 16:30~18:00頃

会場：明治大学生田キャンパス 中央校舎 0310 教室

近年、薬剤による防除が困難な害虫の対策として、天敵利用が徐々に拡大しています。天敵利用といえば、これまでは施設栽培における導入天敵の利用が主体となっていました。最近では地域資源である『土着天敵』の中から有望な種を選抜して用いる動きも活発化してきました。

千葉県でも、これまで天敵がうまく利用できていなかった施設栽培イチゴのアザミウマ類の対策として、オオメカメムシを生物農薬として用いるための研究開発に取り組んできました。また、露地栽培のネギで問題となるネギアザミウマやネギハモグリバエのIPM(総合的害虫管理)の一環として、植生管理による土着天敵の保護利用技術の開発を行っています。

今回のセミナーでは、農業大学校における最近の取り組みも含め、千葉県の野菜類における土着天敵利用の現状と展望について紹介して頂きます。皆さま、奮ってご参加下さい。